

7歳ころからの治療

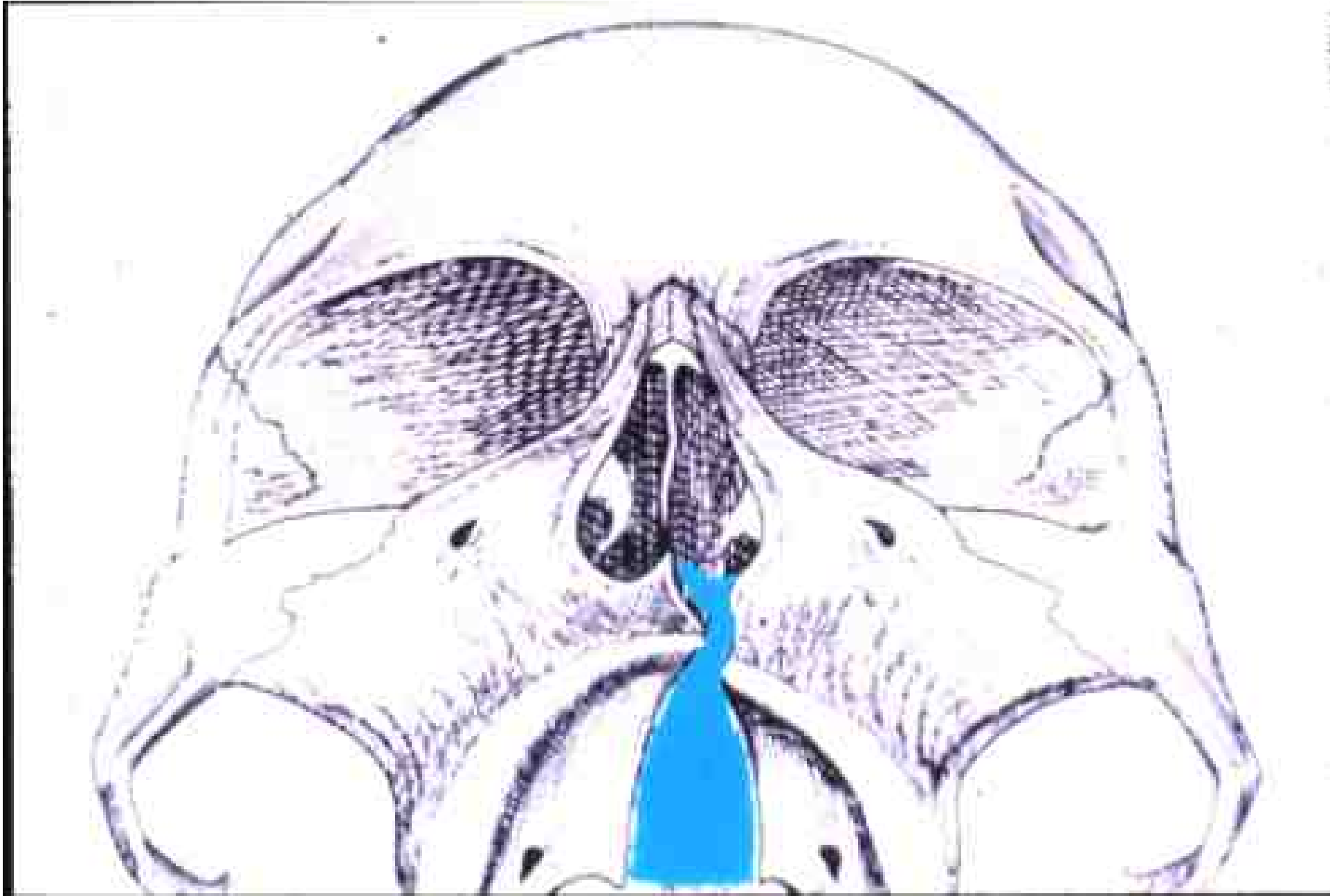
顎裂部骨移植、自家歯牙移植を行
いマルチブラケット装置による矯正
治療のみで終了した症例

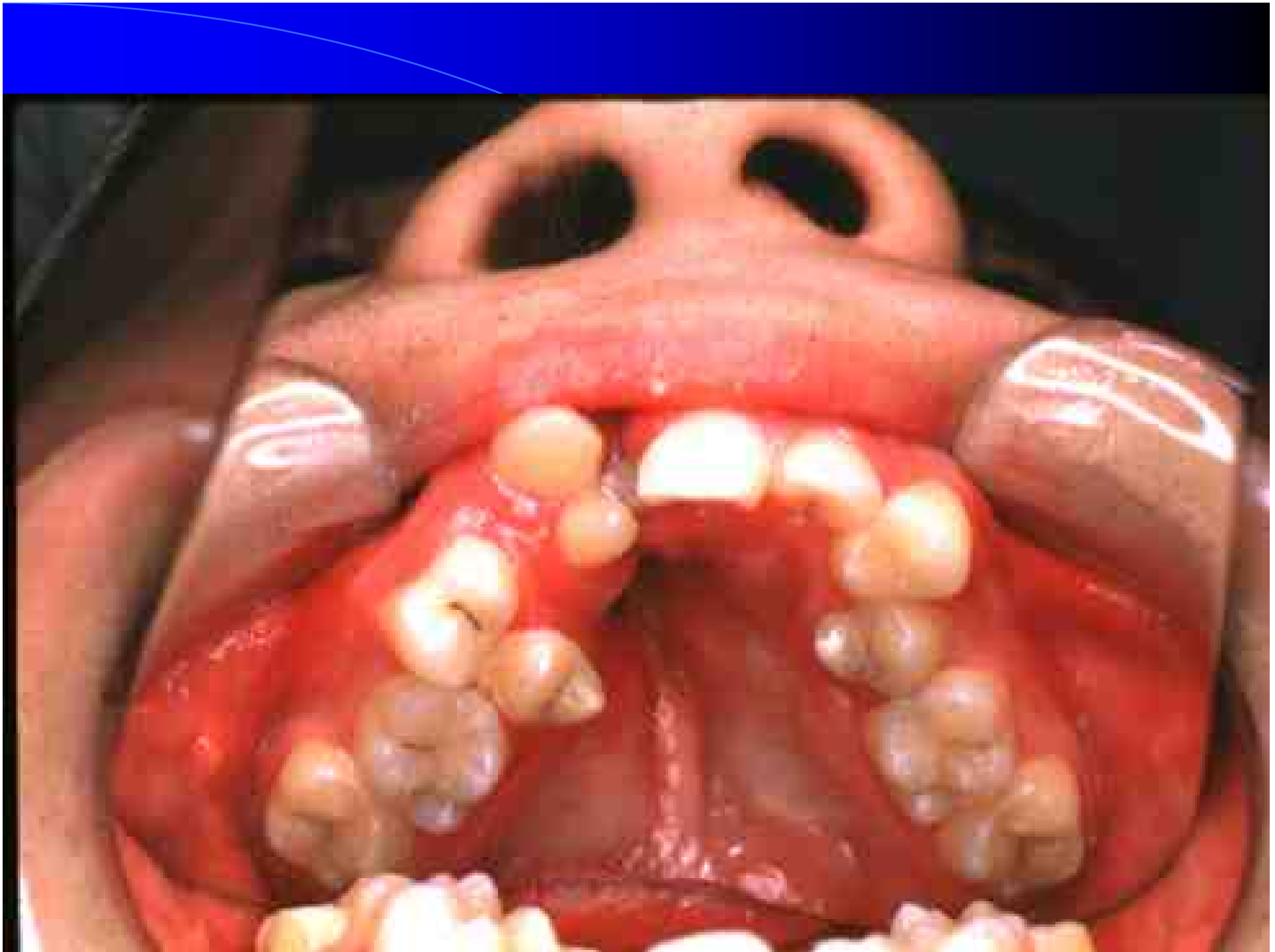
唇顎口蓋裂児の矯正歯科治療の困難性

- 先天性骨欠損、歯牙欠損の欠損量が大きな症例が多いため、できる限りの組織保存を心がける必要がある。
- 観察時期、治療時期を含めて通院が長期になる。
- 子供の精神発達の変化が治療中におこり身体の発達変化と併せて治療時期についての配慮が要求される
- 形成外科、言語治療士、その他各医療分野との信頼関係が不可欠
- 治療の目標は、家族の幸せであり、治療はそれら土台を作るための1手段である。
- 唇顎口蓋裂は、先天性奇形であり、程度が強い場

顎裂部への骨移植の矯正歯科的利点

1. 犬歯の自然萌出が期待される
2. 歯列弓の連続性が得られることにより保定が容易となる
3. 鼻翼基部の対称性が得られやすい。
4. 乳歯をふくめた周囲歯牙の顎裂骨移植部への移動が可能
5. 自家歯牙移植、人工歯根が適応となる可能性がある。
6. 顎裂辺縁部の埋伏歯牙の成長の可能性が高まる
7. その他







症例 1

初診時年齡 3歲 女兒兩側唇顎裂





•87.12.24



•88.5.20



•93.1.8

骨移植術前

y.t



骨移植術直後

y.t



•骨移植

•95.10.16

•10y10m

•96.3.14

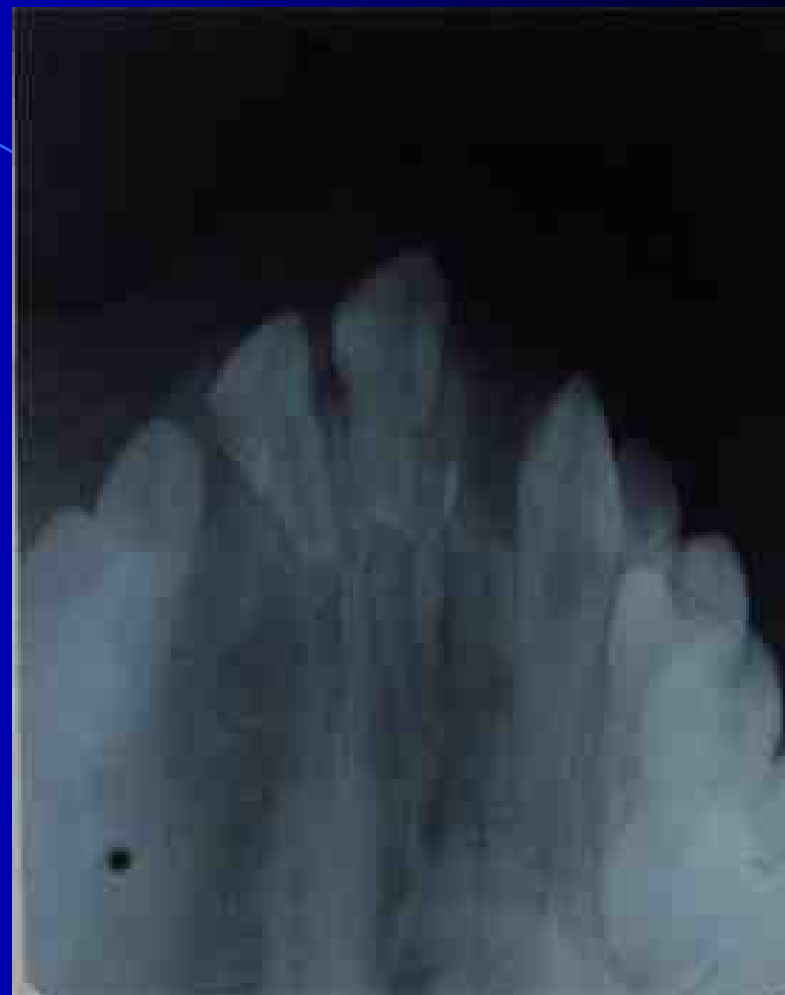
•97.5.9





骨移植後1年1ヶ月

y.t

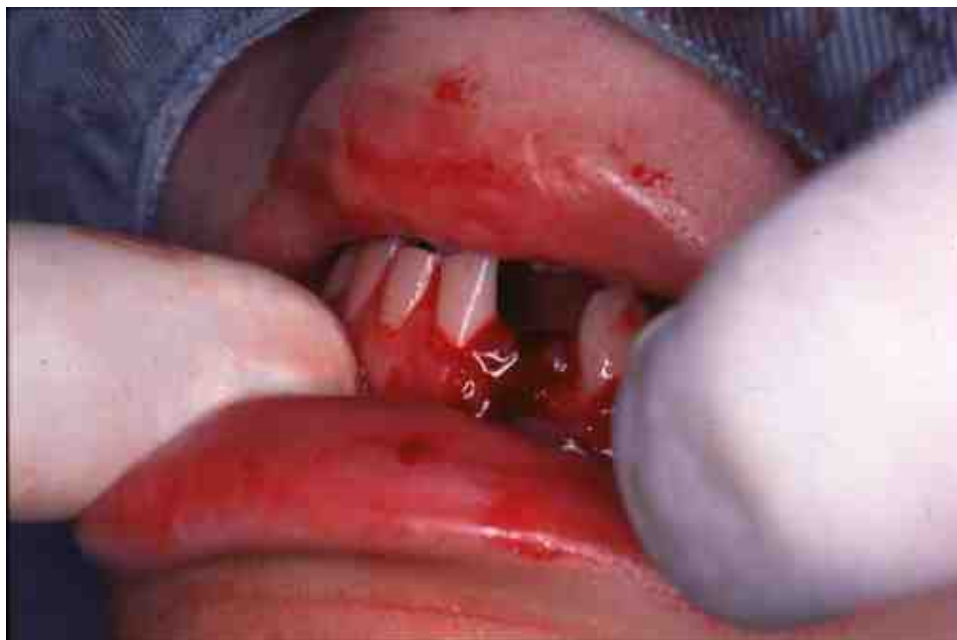


骨移植後3年1ヶ月

y.t







自家歯牙移植後1ヶ月



自家歯牙移植後1年3ヶ月





自家歯牙移植後1ヶ月

y.t



自家歯牙移植後1年4ヶ月

y.t





19Y

症例2 K.F

初診時年齢6歳2ヶ月男児 左側唇顎口蓋裂



8歳4ヶ月



10歳5ヶ月



12歳顎裂部骨移植後



14歳10ヶ月自家歯牙移植術前 術直後



術後4ヶ月



術後9ヶ月





14歳10ヶ月自家歯牙移植術前



自家歯牙移植術直後2ヶ月



術後5ヶ月



術後7ヶ月



術後9ヶ月



5y1m

